

GO FOR KOGEI 2022 のテーマと特別展の詳細が決定。 本日よりウェブサイトがリニューアル、前売り券（共通パスポート）を販売開始

北陸工芸の祭典 GO FOR KOGEI は、豊かな自然や歴史が育む文化を受け継いできた北陸を舞台に、広域的なアートエリアの形成を目指し、工芸の魅力を国内外に発信する取り組みです。2022 年 9 月 17 日（土）から 10 月 23 日（日）に開催する GO FOR KOGEI 2022 では、重要文化財に指定された寺社仏閣 3 会場で同時開催する特別展や各地域で開催される 7 つの「工芸祭」との連携など、北陸を旅するきっかけとなるさまざまなプログラムを実施します。

第二弾のリリースでは、GO FOR KOGEI 2022 の全体テーマと共に特別展「つくる一土地、くらし、祈りが織りなすもの」のみどころや出展作家 20 名の詳細情報をお知らせいたします。それに併せ、本日より公式ウェブサイトがリニューアルし、特別展 3 会場を巡る共通パスポートの前売り販売を開始します。



GO FOR KOGEI 2022 開催概要

タイトル： 北陸工芸の祭典 GO FOR KOGEI 2022
テーマ： 感情をゆらす、工芸の旅

展覧会名： つくる一土地、くらし、祈りが織りなすもの一
会期： 2022 年 9 月 17 日（土） - 10 月 23 日（日）
休場日： なし
時間： 午前 9 時 00 分 - 午後 4 時 00 分
※入館は閉館の 30 分前まで ※那谷寺は午前 9 時 15 分 -

会場： 勝興寺（富山県高岡市伏木古国府 17 番 1 号）、那谷寺（石川県小松市那谷町 2-122）
大瀧神社・岡太神社（福井県越前市大滝町 13-1）

料金： 共通パスポート 前売り 1,800 円 当日 2,000 円
チケット販売： 個別入場券 勝興寺 1,200 円 那谷寺 1,200 円 大瀧神社・岡太神社 500 円
PassMarket にて販売（会期中は各会場の受付でも販売します）

主催： 認定 NPO 法人趣都金澤、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁

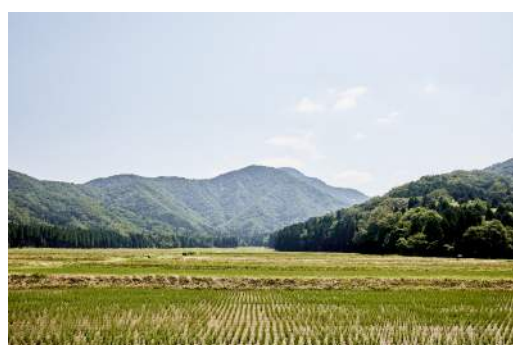
感情をゆらす、工芸の旅

GO FOR KOGEI は、北陸を舞台に工芸の魅力を今日的視点から発信するプラットフォームとして、2020年より始まりました。富山、石川、福井の北陸三県には、地場の自然素材や古くから受け継がれてきた技術を活かした工芸の産地が数多く存在しています。また、美術館や大学、研究所、工房が集積し、専門的な見地から研究・制作が行われることで、これまでの領域にとらわれない新たな工芸が芽吹く、豊かな土壌が育まれています。幅広い工芸を有する北陸から工芸の魅力を発信するべく、昨年は2つの大型展を開催し、多様化する工芸のあり方をそれと隣接する現代アートやデザインと共に提示しました。

今回は「感情をゆらす、工芸の旅」をテーマに、現代を生きる私たちと「もの」との関わり方を、ものづくりの源流とも言える工芸を通して再考していきます。これまで手仕事で行われてきた工芸の取り組みも時代と共に変遷を歩んできました。時間を越えた工芸との出会いは、つくり手や産地だけでなく、その時代に沿った素材との向き合い方を知るきっかけにもなります。おおよそ自分とは無関係と思われたものと向き合うことは、ものと人が寄り添い、時間をかけて感情をゆらし、何気ない暮らしの中に質感をもたらしてくれます。それが私たちにとって最も身近な芸術である工芸なのではないでしょうか。

GO FOR KOGEI 2022 では、プリミティブへの回帰から最新のテクノロジーまで「ものづくり」の振幅を時間軸の中でみせる特別展をはじめ、各地域のつくり手らとつながる工芸祭や、工芸を育んできた北陸の文化、風土、歴史を見出す各種プログラムをお届けします。太古から変わらない普遍的なものから未来志向のものまで、工芸と人々の暮らしが密接に結びついたこの北陸の地で触れる経験は、皆さんの機微に触れ、感情をゆらすものとなるでしょう。工芸をきっかけに北陸を訪れる方々の良き旅の案内役になることを願っています。

総合監修・特別展キュレーター
秋元雄史
東京藝術大学名誉教授、練馬区立美術館館長



特別展「つくる―土地、暮らし、祈りが織りなすもの―」

特別展「つくる―土地、暮らし、祈りが織りなすもの―」は、昨年開催した「工芸的な美しさの行方 工芸、現代アート、アール・ブリュット」展で見せた、“ジャンルを超えた素材と制作の関係性と創造性”の続編にあたる内容です。本展では、繊維、染織、陶、漆、金属、木、紙などの、多様な素材とそれへの関わり方や技術を、広く「つくる」という視点によって見直し、創作活動を行う、作家らを紹介します。

出品作家は、繊維・染織を素材とした多様な表現の展開として、樫尾聡美、河合由美子、小森谷章、福本潮子、細尾真孝、吉田真一郎。陶芸や金工といった工芸的アプローチからジャンルをまたぐハイブリッドな創作を行う近藤七彩、奈良祐希、新里明士。素材と場所の関わりから新たな工芸表現を展開する井上唯、鶴飼康平、佐合道子。土地の歴史や風土から新たな物語を立ち上げ、アート作品にする鴻池朋子、橋本雅也、六本木百合香。人間存在や身体を仲介して素材、世界、私や人の関係性を表現する小曾川瑠那、宮木亜菜。技術・反技術を超えて、それを無化するように、“遊び”という視点から表現を探る入沢拓、鎌江一美、小笠原森が参加します。

富山、石川、福井のそれぞれ地域を代表する社寺仏閣を会場に、建築、庭園、自然環境の中でサイトスペシフィックな作品が展開します。

キュレーション： 秋元雄史（キュレーター／東京藝術大学名誉教授、練馬区立美術館館長）

高山健太郎（キュレーター／株式会社 artness 代表）

会場設計： 周防貴之（建築家）

特別展のみどころ

- ①工芸、現代アート、アールブリュットの世界で活躍する若手から実力派までの多様な20名のアーティストが参加します。
- ②歴史のある社寺仏閣の建築、庭園、自然環境の中でサイトスペシフィックな作品を展示します。
- ③ジャンルを超えた素材と制作の関係性と創造性から、現代アート、工芸などの多様な価値評価を提示します。



鴻池朋子

Photo: Tomoko Konoike



新里明士



樫尾聡美

Photo: KIOKU Keizo



小笠原森

小笠原は、大学で陶芸を学び、当時から身体的スケールで焼き物を制作している。素材と身体との関係を探求し、ときに高さ2mを超える焼き物も手がける。作品は土を積むことから始まる。土を積み重ねることで現れる形と、身体を動かし自らの行為によって現れる形と、素材と身体との繰り返し返される延々の反応から、作品が生み出される。反応の集積から表出した造形には、動的な有機体のような印象を与える。

《きっかけをかさねる 2022》2022 展示風景「きっかけをかさねる」(2022年)東京ガーデンテラス紀尾井町



梶尾聡美

筒描きや、刷毛による色挿し、シルクスクリーンなどの技法を組み合わせ、繊細で精緻な描写を行う。近年は、生命の内側を表したような細かやかに描写された布を、多層に組み重ね合わせた空間インスタレーションを展開している。身体をこえる巨大なスケールの布の中に身を置くことで、普段は見えない体の内側に入り込んだかのような印象を受ける。身体がなぜ存在するのかという感覚を揺らし、生命感を問い直しているような視点に、染織の新たな広がり可能性を感じる。

《揺れる境界》2015 展示風景「生命の内側にひそむもの」(2015年)金沢21世紀美術館 Photo: KIOKU Keizo



鎌江一美

鎌江は、陶土を用いた人の立体像をつくり続けている。最初に題材を決め、原形を整え、細かい米粒状の陶土で表面全てを丹念に埋め込んでいく。無数の粒は作品全体を覆い尽くし、体毛のようにも、皮膚の表皮にもみえる。モチーフはすべて同じ人物だ。思いを寄せる男性に振り向いて欲しいという純真さが作品の根幹をなす。完成までに大きな作品は2か月を要するものもあり、今回は25点とこれまでで最大規模の展示になる。

《まさとさん》2011



河合由美子

河合は、一貫して25年間、布に丸い円を縫い続けている。布に描いた円を、糸で輪郭をかたどりながら縫い込み、様々な表情を持った丸い円ができる。平面だった布は、何層にも糸が積層することで、立体的な丸い形が浮き上がってくる。多彩な色が重なりあい、一枚の布の中にも多様な情景が生まれ、表情豊かな山のようにも見える。ひとつの作品はおよそ3ヶ月かけて完成する。今回は布や着物に縫った作品20点を出展する。

《まる》2014



小曾川瑠那

小曾川のガラスの作品は、生や記憶を保管するための記録媒体と捉えて制作を行なっている。近作《息を織る》は、コロナ禍の自身の命の記録として、溶けたガラスに息を吹き込み、目に見える形で生の痕跡を表したいという考えに基づいた作品である。今回は、北陸に在住する約200名が作品制作に加わり、小曾川とともに、自身の生の記録をガラスに吹き込む。「この地の命」を浮かび上がらす参加型作品として勝興寺にて展示を行う。

《息を織る 2021》2021 展示風景「上野アーティストプロジェクト2021 Everyday Life: わたしは生まれなおしている」(2021年)東京都美術館ギャラリーA・C Photo: Daisaku OOUZU 提供: 東京都美術館



小森谷章

小森谷は、一本一本の糸による有機的な動きや流れから、自由に遊び心のある造形をつくりだしている。様々な色の織り糸を用いて、ぐるぐると巻きながら形が現れ、体を超える長さの作品をつくり、大きなものは6mをもこえる。近年は、ぐるぐると巻いた糸の球や、糸の山を制作している。膨大な糸の量と、自由な造形が魅力的な世界をつくりだしている。今回は作品20点を出品し、これまでで最大規模の展示になる。

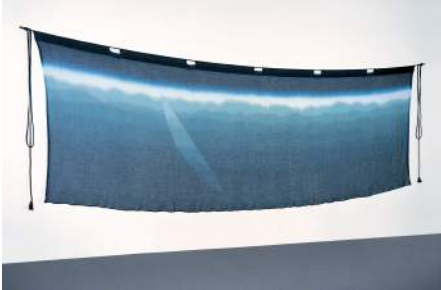
《無題》1997-2001



奈良祐希

陶芸家・建築家という2つの顔を持つ奈良は、陶芸に、二次元的造形の三次元展開という建築的発想を取り入れた制作をする。作品は色のない白磁の制作ではじめに面を作り、それを立体的に組み立てる。近年は、異分野のクリエイターとのコラボレーションにより、表現の幅を広げている。今回は、いけばな小原流五世家元の小原宏貴とコラボレーションを行い、奈良の新作の白磁に小原が花を活ける。

《Frozen Flowers》2022 展示風景「コレクション展1 うつわ」(2022年)金沢21世紀美術館
Photo: KIOKU Keizo 提供:金沢21世紀美術館



福本潮子

福本は、大学在学中に訪れたパプアニューギニアで現地の伝統美術に出会い、日本の伝統美術に興味を抱く。帰国後、藍染に出会い、独学で藍を学ぶ。着物や帯などの実用性のあるものから、空間インスタレーションのアート作品も数多く手掛けている。今回出品する幔幕は、シンプルな抽象度の高いグラデーションが特徴的だが、布の表面に揺れる波のようなテクスチャーが加わることで、時間的な奥行きや広がりを感じさせる。

《月影》2004 展示風景「第14回清流展」(2004年)染・清流館、松代藩文武学校



細尾真孝

細尾は、西陣織の老舗織屋の家に生まれ、西陣織を改革するアートプロデューサーであり、クリエイターである。近年は、数学者やプログラマーなどと新しい織物の研究を進めている。今回は、アーティストでプログラマーでもある古館健と共に、職人の感性や経験を元に培われてきた織組織を、コンピューター・プログラムのコードによって生成するという先端的手法でつくられた作品を展示する。

《Aya / Lines #1108017408》2020
展示風景「QUASICRYSTAL 一コードによる織物の探求」(2020年)HOSOO GALLERY 株式会社細尾 所蔵



宮木亜菜

宮木は、自身の身体を物質として捉え、自ら作品の一部となったインスタレーションやパフォーマンス作品を発表している。出品作品《鉄とからだの動き》は、体の様々な部分の力の強さや、弱さから、身体を追求したいという考えに基づき、慣習化された身体と素材の関わりとは全く異なるアプローチで作品を発表している。固定概念化された素材と身体の関係性や「女性らしさ」「男性らしさ」ではない、一貫して身体という物質の探求が感じとれる。

《鉄とからだの動き》2021 展示風景「肉を束ねる」(2021年)京都市京セラ美術館 Photo: Kai Maetani



吉田真一郎

アーティストであり、自然布の蒐集家・研究家として知られる吉田は、かつては白を追求するペインティングを制作していたが、ヨーゼフ・ボイスとの出会いから制作そのものを見直し、古美術や民俗学を学び、「白の探求」という視点から苧麻布や大麻布の研究を続けてきた。今回出品する大麻布は、吉田の作品とも、民族的な資料とも言えるが、40年以上に渡って収集された大麻布を使用して、自ら理想とする白を提示する。無名の人の手によって制作された大麻布から、織りや糸の微妙な変化が浮び上がり、改めて織細で深みのある白の美しさを感じることができる。

《白1》2021

勝興寺

勝興寺は、日本海の沿岸部、富山県高岡市伏木古国府に位置する浄土真宗本願寺派の寺院。本願寺八世蓮如上人が、文明3年(1471年)越中の布教の拠点として創設し、様々な変遷を経て現在の地に移りました。約30,000㎡の広大な境内には、本堂をはじめとする、12棟の建造物が重要文化財に指定されています。1998年から「平成の大修理」として23年をかけて行われた保存修理事業が2021年に完了。本展は、重要文化財の指定をうける大広間、式台、台所、書院などの建築空間と、庭園など屋外空間を含む広大なエリアで展開します。





井上唯

井上は、土地の自然や風土と、そこで育まれてきた人間の営みに関心を寄せ、土地の素材や、編む、結ぶ、縫うといった原初的な手法を用いて、目に見えない繋がりや光景をつくりだすインスタレーション作品を各地で発表している。出品作品は、昔からこの地域だけでなく広く遠方からも信仰を集めてきた“白山”の存在をテーマに、「みくまりのかみ（水分神）」という山と一体化した水への信仰にも着目。分水嶺から始まり、山肌をつくり、地中や海へと繋がっていく水の流れを、地元の糸や繊維によって表したスケールの大きな作品である。

《この土地に生きる》2019

展示風景「滋賀近美アートスポットプロジェクト vol.2: Symbiosis」(2019年) 滋賀県高島市泰山寺付近



入沢拓

入沢は、大学院で木工を学んだ後、独自に編み出された楔（くさび）止めの技法によって、細く切り出された木材を連結したインスタレーションを手がける。楔による連結が、組み立てや解体を容易にし、空間に対して柔軟な展開を行っている。楔止めの技法を更新し、作品に即興性と軽快さを与え、場所ごとに変容と拡張をすることが入沢の魅力だ。今回の作品は、那谷寺の書院にて、空間を自由に行き来する有機的な形態に取り組む。

《無題》2021 展示風景「GEIDAI FACTORY LAB 2017~2021 - MATERIAL COMPLEX -」(2021年) 東京芸術大学 陳列館



鵜飼康平

漆は、古くから椀や箱など天然の接着剤や塗料として用いられてきた。鵜飼は、大学で漆を学び、漆を塗る・研ぐ行為の繰り返しから、偶発的に生まれる形を拾いあげ、作品として発表してきた。今回出品する作品は、那谷寺の境内で偶然出会った倒木を切り出し、過去最大規模のスケールの大きな作品を手掛ける。自然の摂理によって倒れ、参道を塞ぐ危険物として除去される運命の倒木に、新たな命を宿すことに向きあった作品である。

《融 21-03》2021 Photo: OKAMURA Kichiro



近藤七彩

近藤は、大学で金工を学び、在学中から、手放された古家具を素材に作品を手がけている。家具本来の機能や用途を残し、金属の新たな組み込みや、フレームを新たに与えることによって、現代のライフスタイルに馴染むように家具の概念を拡張する。人の暮らしで染み付いた、かつての佇まいを忘れ去るほど、インテリアともオブジェとも形容できないような、独特な新鮮味を作品から感じ取ることができる。

《東京物語家具シリーズ》2022



佐合道子

原初の生命のような白い球体が、湧き出るように、無数にひろがっていく。それらは命を授かったばかりの生き物のように、ゆっくりと増殖し、場所を覆っていく。球体に近づくとかげや海藻のような細かい描写があり、佐合が表現したい生命感が出ている。今回は足立美術館を作庭したことで知られる中根金作が手がけた那谷寺の琉美園で、天候や環境によって刻々と変化する野外空間にてインスタレーションを展開する。

《とこしえ》2019 Photo: Ikeda Hiraku



新里明士

新里は、「光器（こうき）」と呼ぶ代表作品が国内外の注目を集める新進気鋭の陶芸家である。ろくろで成形した白磁の生地に穴を開け、穴の部分に透明の釉薬をかけて焼成することで、文様が浮かび上がる「蛸手（ほたるで）」と呼ばれる技法を独自に発展させている。近年は、作品を展示台や展示空間から解放する「まる」のシリーズを新たに手がけ、作品と場所との関係性へと意識を向かわせている。

《spheres》2021 展示風景「No Man's Land - 陶芸の未来、未だ見ぬ地平の先 -」(2021年) 兵庫陶芸美術館

那谷寺

那谷寺は、九谷焼の陶石が取れる白山の麓に位置する石川県小松市の仏教寺院。養老元年（717年）に泰澄が創建したと伝えられています。広い境内は奇岩遊仙境と称され、紅葉狩りの名所でもあり、岩窟内に造られた本殿など7つの重要文化財と2箇所の名勝があります。本展は、特別拝観エリアに位置する重要文化財の書院や庭園、また通常拝観エリアの奇岩遊仙境が位置する境内や森の中で展示を行います。



大瀧神社・岡太神社（福井県越前市）での出品作家



鴻池朋子

絵画、彫刻、映像、アニメーション、物語など様々なメディアを用いて、一貫して芸術の根源的な問い直しを続けている。近年は、旅の途中で出会う人や言葉、自然環境や動植物など、出会いのなかから生まれる制作手法を試みている。出品作品の《皮トンビ》は、牛革を漉いた際にでる裏革を縫い合わせてできている。雨水をうけ、日の光をうけ、常に外部に晒される躯体から、素材とものづくりに対する問いや、この地で存在することの根源的な意味の問いが投げかけられる。

《皮トンビ》2021 展示風景：瀬戸内国際芸術祭2019(2019年)大島 Photo: Tomoko Konoike



橋本雅也

橋本の創作活動の原点は、2000年にインドを旅した経験にさかのぼる。河原でひろった木片に手を加えることで、内包していたものが表出してくる現象に興味を抱いたことにはじまる。代表作の鹿の角や骨を素材に、草花をモチーフとした作品は、国内外で注目を集めている。近年は展示する場所で採取した土や木などの素材、自然環境に手を加え、生命の諸相に触れる作品を多く残している。

《水鏡／羽》2018 展示風景「土祭」(2018年)山本八幡宮 Photo: Ooki Jingu



六本木百合香

六本木の作品は、架空の人物や動物を、独自の解釈とともに、壮大な世界観と圧倒的な画力で描くのが特徴だ。色彩はカラフルで、軽妙なポップさがあり、物語の独特な構成には、同時代のヒップホップ音楽の影響を見受けられることができる。今回は、越前和紙の製法のルーツとなった川上御前の伝説をテーマに、地域に残る伝承に着想を得て、壮大な物語として作品を制作する。素材には越前和紙を用いて現代的な絵巻物の形式で作品を発表する。

《ENTER》2018

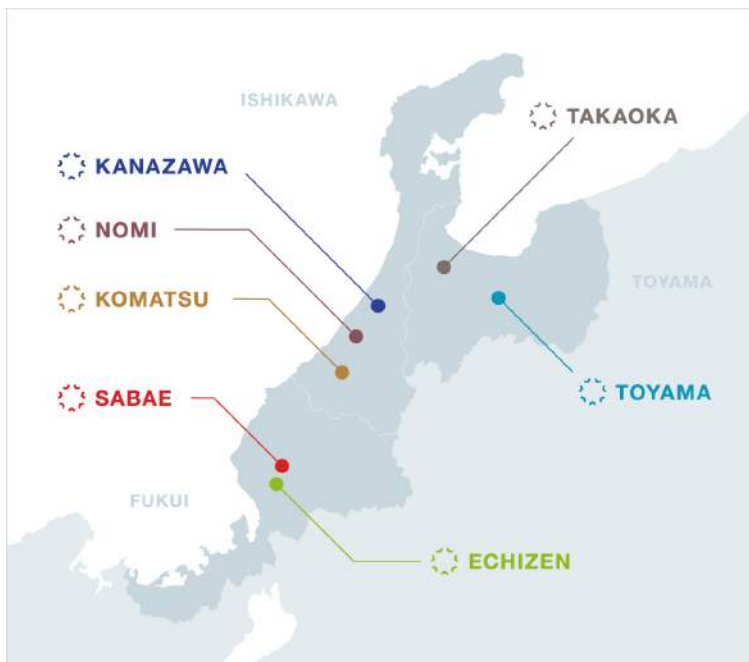
大瀧神社・岡太神社

大瀧神社・岡太神社は、深い山に囲まれた越前和紙の工房が軒を連ねる福井県越前市に位置します。大瀧神社は、養老3年（719年）に泰澄が創設したと伝えられており、岡太神社には日本で唯一の紙の神様、川上御前が祀られています。山の頂にある上宮（奥の院）とそのふもとに建つ下宮があり、下宮の本殿は両神社の共有となっていることから、2つの神社の名前が併記されています。本展は、下宮の境内及び、周辺の杉林の中で展開します。



7つの工芸祭について

23品目の国指定の伝統的工芸品が作られる北陸では、アートやデザインの領域に拡大する新たな工芸の魅力を感じることができる「工芸祭」が多数開催されています。富山、石川、福井の3県をまたがって開催される特別展や各種プログラムとともに、工芸を巡るホクリク旅を楽しんでみてはいかがでしょうか。



富山ガラスフェスタ

会場： 富山ガラス工房（富山県富山市古沢 152 番地）
日程： 2022/10/1（土）-10/2（日）

高岡クラフト市場街

会場： 富山県高岡市内
日程： 2022/9/23（金）-9/25（日）（オンライン：9/17 から配信）

金沢 21 世紀工芸祭

会場： 石川県金沢市内各所
日程： 2022/10（予定）

KOGEI Art Fair Kanazawa 2022

会場： ハイアットセントリック 金沢
（石川県金沢市広岡 1-5-2）
日程： 2022/12/9（金）-12/11（日）※12/9 は招待者限定

KUTANism 2022

会場： 石川県能美市・小松市内
日程： 2022/10/15（土）-12/11（日）

RENEW/2022

会場： 福井県鯖江市・越前市・越前町内
日程： 2022/10/7（金）-10/9（日）

千年未来工芸祭

会場： 越前市アイシンスポーツアリーナ
（福井県越前市高瀬 2 丁目 8-23）
日程： 2022/8/27（土）-8/28（日）

工芸 × Design がつくるこれからの暮らしについて

GO FOR KOGEI 2021 特別展 II 「工芸 × Design 13 人のディレクターが描く工芸のある暮らしの姿」で生まれたプロダクトを用いた北陸ならではの飲食体験をはじめ、何気ない暮らし中に質感をもたらしてくれる工芸を体感するプログラムをお届けします。プログラム詳細、会場は WEB サイトから御確認下さい。

日時：2022/9/1（土）-10/23（日）の間



ブライアン・ケネディ×中田雅巳《プレート、ボウル、カップ：中田雅巳によるヨーロッパのテーブルウェア》

シトウレイ×高橋悠真《re-LIFE》

secca × 山近スクリーン《印判手再考》写真（3点）：方野公寛

チケット販売について

展覧会の開幕に先駆けて、特別展3会場を巡る共通パスポートの前売り券を販売します。
3会場をすべて個別入場券で巡るよりも、前売り共通パスポートでは1,100円お得にチケットを購入いただくことができます。また特典として、前売り券をご購入された方の中から先着1,000名様にはオリジナル・トートバッグを進呈します。この機会に是非お買い求めください。

共通パスポート前売り：1,800円 9月16日（金）まで

>>> チケット購入はこちらから：<https://passmarket.yahoo.co.jp/event/show/detail/02qh330y7ze21.html>

※共通パスポートは特別展3会場に入場できるチケットです(各会場1回まで)。
※共通パスポートの当日券は、9月17日(土)以降に販売を開始します(2,000円)。
※個別入場券は9月17日(土)から販売を開始します(勝興寺1,200円 | 那谷寺1,200円 | 大瀧神社・岡太神社500円)。
※中学生以下、障害者手帳をお持ちの方と同伴者1名様に限り無料。
ただし、那谷寺では、中学生800円、小学生300円、幼児無料、障害者手帳をお持ちの方と同伴者1名はそれぞれ500円をお支払いください。
※オンラインでご購入いただいた電子チケットは、特別展の各会場にて、紙チケットへの引き換えを行います。

記者発表会 & 開催記念シンポジウムのご案内

開幕に先立ち、7月30日(土)に、GO FOR KOGEI 2022の企画内容に関する「記者発表会」及びGO FOR KOGEI 2022開催記念シンポジウム「工芸再考ーアート、ポリティックス、ジェンダーの視点から」を開催します。
別添資料にてご案内しておりますので、ご来場下さいますようお願いいたします。

日時： ①11:00 - 11:45 記者発表会
②13:00 - 17:00 GO FOR KOGEI 2022 開催記念シンポジウム
会場： 金沢21世紀美術館 シアター21 (石川県金沢市広坂1丁目2-1)



広報用画像について

プレスリリースに掲載された画像を広報用にご提供いたします。
ご希望の方は別添資料をご確認の上、お問い合わせの担当者までご連絡ください。

GO FOR KOGEI 2022 開催概要

タイトル： 北陸工芸の祭典 GO FOR KOGEI 2022
会期： 2022年9月17日(土) - 10月23日(日)
主催： 認定NPO法人趣都金澤、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁
共催： 金沢21世紀工芸祭実行委員会、クタンズム実行委員会、ガラスフェスタ(富山ガラス工房)、高岡クラフト市場街実行委員会、RENEW実行委員会、クラフトフェス実行委員会
特別協力： いけばな小原流(一般財団法人小原流)
協力： 勝興寺、那谷寺、大瀧神社・岡太神社、富山ガラス造形研究所、ニッコー株式会社
特別協賛： あおぞら薬局、THE SENSES、一般財団法人未来人材基金、MC Jフィンテック株式会社、JPアライアンス株式会社、ビーインググループ、未来トラスト株式会社、樂翠亭美術館、リバーリトリート雅楽倶
後援： 富山県、石川県、福井県、富山市、高岡市、金沢市、能美市、小松市、越前市、富山経済同友会、金沢経済同友会、福井経済同友会、富山青年会議所、高岡青年会議所、金沢青年会議所、小松青年会議所、武生青年会議所、JR西日本
委託： 令和4年度日本博主催・共催型プロジェクト
公式HP：<https://goforkogei.com/>
※公式ウェブサイトを本日付けでリニューアル。

お問い合わせ

認定NPO法人趣都金澤事務局





















石川県金沢市下本多町6-40-1(株式会社ノエチカ内)
076-223-3580 | 080-4833-6464 (担当: 薄井・星野)
info@goforkogei.com



画像貸出一覧(1/2)

| | | | |
|--|---|--|---|
| <p>A. メインヴィジュアル(横)</p>  <p>Artwork: Shinichiro Yoshida Photo: Shintaro Shiratori</p> | <p>B. メインヴィジュアル(縦)</p>  <p>Artwork: Shinichiro Yoshida Photo: Shintaro Shiratori</p> | <p>C. ロゴマーク</p>  <p>GO FOR KOGEI 2022 北陸工芸の祭典</p> | <p>D. 北陸工芸MAP</p>  |
| <p>E. 勝興寺</p>  | <p>F. 那谷寺</p>  | <p>G. 大瀧神社・岡太神社</p>  | <p>H. 北陸の風景(富山)</p>  |
| <p>I. 北陸の風景(石川)</p>  | <p>J. 北陸の風景(福井)</p>  | <p>K. 工房体験 1</p>  | <p>L. 工房体験 2</p>  |
| <p>M. 7つの工芸祭 1</p>  | <p>N. 7つの工芸祭 2</p>  | <p>O. 工芸×Design がつくるこれからの暮らし1</p>  <p>ブライアン・ケネディ×中田雅巳<<プレート、ボウル、カップ:中田雅巳によるヨーロッパのテーブルウェア>> 写真:方野公寛</p> | <p>P. 工芸×Design がつくるこれからの暮らし2</p>  <p>シトウレイ×高橋悠真 <<re-LIFE>> 写真:方野公寛</p> |
| <p>Q. 工芸×Design がつくるこれからの暮らし3</p>  <p>secca×山近スクリーン <<印判手再考>> 写真:方野公寛</p> | | | |

画像貸出一覧 (2/2)

| | | | |
|---|---|--|---|
| <p>①井上唯</p>  <p>《この土地に生きる》2019 展示風景「滋賀近美アーツスポットプロジェクトvol.2: Symbiosis」(2019年) 滋賀県高島市泰山寺付近</p> | <p>②入沢拓</p>  <p>《無題》2021 展示風景「GEIDAI FACTORY LAB 2017～2021 - MATERIAL COMPLEX -」(2021年) 東京芸術大学 陳列館</p> | <p>③鶴飼康平</p>  <p>《融 21-03》2021 Photo: OKAMURA Kichiro</p> | <p>④小笠原森</p>  <p>《きっかけをかさねる 2022》2022 展示風景「きっかけをかさねる」(2022年) 東京ガーデンテラス紀尾井町</p> |
| <p>⑤榎尾聡美</p>  <p>《揺れる境界》2015 展示風景「生命の内側にひそむもの」(2015年)金沢 21 世紀美術館 Photo: KIOKU Keizo</p> | <p>⑥鎌江一美</p>  <p>《まさとさん》2011</p> | <p>⑦河合由美子</p>  <p>《まる》2014</p> | <p>⑧鴻池朋子</p>  <p>《皮トンビ》2021 展示風景：瀬戸内国際芸術祭2019 (2019年) 大島 Photo: Tomoko Konoike</p> |
| <p>⑨小曾川瑠那</p>  <p>《息を織る 2021》2021 展示風景「上野アーティストプロジェクト2021 Everyday Life: わたしは生まれなおしている」(2021年) 東京都美術館ギャラリーA・C Photo: Daisaku OOZU 提供: 東京都美術館</p> | <p>⑩小森谷章</p>  <p>《無題》1997-2001</p> | <p>⑪近藤七彩</p>  <p>《東京物語家具シリーズ》2022</p> | <p>⑫佐合道子</p>  <p>《どこしえ》2019 Photo: Ikeda Hiraku</p> |
| <p>⑬奈良祐希</p>  <p>《Frozen Flowers》2022 展示風景「コレクション展 1 うつわ」(2022年) 金沢21世紀美術館 Photo: KIOKU Keizo 画像提供: 金沢21世紀美術館</p> | <p>⑭新里明士</p>  <p>《spheres》2021 展示風景「No Man's Land - 陶芸の未来、未だ見ぬ地平の先 -」(2021年) 兵庫陶芸美術館</p> | <p>⑮橋本雅也</p>  <p>《水鏡／羽》2018 展示風景「土祭」(2018年)山本八幡宮 Photo: Ooki Jingu</p> | <p>⑯福本潮子</p>  <p>《月影》2004 展示風景「第14回清流展」(2004年) 染・清流館、松代藩文武学校</p> |
| <p>⑰細尾真孝</p>  <p>《Aya / Lines #1108017408》2020 展示風景「QUASICRYSTAL - コードによる織物の探求」(2020年)HOSOO GALLERY 株式会社細尾 所蔵</p> | <p>⑱宮木亜菜</p>  <p>《鉄とからだの動き》2021 展示風景「肉を束ねる」(2021年) 京都市京セラ美術館 Photo: Kai Maetani</p> | <p>⑲吉田真一郎</p>  <p>《白1》2021</p> | <p>⑳六本木百合香</p>  <p>《ENTER》2018</p> |

